

2017年5月12日

AGC 旭硝子、インドネシアで建築用ガラスの生産体制を強化

AGC旭硝子（旭硝子株式会社、本社：東京、社長：島村琢哉）は、インドネシアの当社連結子会社アサヒマス板硝子社（以下、AMG）ジャカルタ工場の建築用ガラスフロート窯及びミラー製造設備を同社チカンベック工場に移設することを決定しました。投資額は約190億円で、2019年第1四半期に量産を開始する予定です。従来よりもフロート窯は40%、ミラー製造設備は30%生産能力を増強することで、同社の建築用ガラス生産体制を強化します。

1973年より板ガラスを生産しているジャカルタ工場は、ジャカルタ市都市開発計画にて用地指定が商業用地に変更されることとなり、同計画への対応を求められています。既にジャカルタ工場に設置していたフロート窯2基のうち、チカンベック工場に移設された1基が2016年12月に生産を開始しています。

今般、インドネシア及び東南アジア地域の成長を見据えてさらにもう1基を移設するとともに生産能力を増強し、合わせて高品質ガラスの生産性にも優れた設備にします。同様に、ミラーを中心とした内装用ガラス製造設備の生産能力を増強することで、多様化する高機能ガラスのニーズに応えていきます。なおこの移設完了後、ジャカルタ工場での生産活動は全て終了し、同工場の土地は売却する予定です。

移設後のフロート窯の概要は以下の通りです。

1. 所在地 インドネシア、西ジャワ州チカンベック
2. 生産能力 フロートガラス・約21万トン/年
3. 特長
 - ・旧窯よりも40%生産能力を向上
 - ・高い燃費効率を持つ環境配慮型
 - ・建築用の多品種、多サイズの高品質ガラス生産が可能
 - ・隣接するミラー設備、オフラインコーティング設備との効率的な一貫生産が可能

AGCグループは経営方針 *AGC plus* の下、今回決定した生産体制増強により、インドネシアはもとより東南アジアで拡大する需要を着実に取り込みます。併せて、2018年第2四半期よりチカンベック工場で稼働を開始する、遮熱性能を高めるスパッタリング法によるオフラインコーティング設備を活用し、この地域で高まる省エネニーズにも応えることで、成長基盤の強化・定着を図ります。

以上

◎本件に関するお問い合わせ先：

AGC 旭硝子 経営企画部広報・IR 室長 玉城 和美

（担当：宮川 TEL: 03-3218-5603 E-mail: info-pr@agc.com）

<ご参考>

アサヒマス板硝子社

1. 社名 アサヒマス板硝子株式会社
2. 代表者 武井 健夫
3. 本社所在地 インドネシア、ジャカルタ
4. 資本金 2,170億ルピア
5. 出資比率 AGC 43.86%（当社連結子会社）
Rodamas[※] 40.96%、その他 15.18%
※現地パートナー
6. 設立 1971年
7. 生産品目 建築用ガラス、自動車用素板ガラス、自動車用加工ガラス、
産業用ガラス、ミラー
8. 生産能力 フロートガラス ・72万トン/年（2019年第1Q見込み）
ミラーコーティング設備 ・680万㎡/年（2019年第1Q見込み）
オフラインコーティング設備 ・600万㎡/年（2018年第3Q見込み）
9. 生産拠点



◎本件に関するお問い合わせ先：

AGC 旭硝子 経営企画部広報・IR 室長 玉城 和美

（担当：宮川 TEL: 03-3218-5603 E-mail: info-pr@agc.com）